

---

# 水の城

リオ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

水の城

### 【Nコード】

N8352C

### 【作者名】

リオ

### 【あらすじ】

水の城の住人が思うこと。あなたへと思うこと。

ここは無音の世界だと思っただろうか。

本当はね、音が溢れているんだよ。

モーターが僕らの家を震わせる。気泡を溢れさせるため。僕らが呼吸をするためさ。小さな小さな破裂音が、この狭い家の中に響いているんだ。

身体を沈ませてお腹に石粒を擦らせると、ちゃりつと音を立てるよ。

たまにお空に顔を出すと、ぱちゃんって鳴ったりするんだよ。

あなたの声だって聞こえます。笑い声、楽しそう。

あなたは何を見ているのかな。視線の先にはテレビが光ってる。

僕はそれを見ながら、仲間二人と尾鱭おひれふりふり行ったりきたり。

ちょっと疲れて流れに乗ってふわふわしてる時も、あなたのことを見てるんだ。

隣でぴよぴよ鳴く子のように、ふわふわでもないし、甘えたりも出来ない。あなたの側に飛んで行くことも出来ない。

だけど、僕はあなたが大好きで、ずっと見ています。

たまに、あなたは僕らを覗いてくれる。写真だって撮ってもらっちゃって、嬉しいな。

僕は毎日のノックを楽しみにしてるんだ。家をコンコン。音を鳴らして僕を呼んで、ご飯がお空から振ってくる。

あなたは僕を腹つぺらしだと言うけど、ご飯に喜んではしゃいでるわけじゃないんだ。

あなたが僕に、おいでおいでってしてくるから、嬉しくて嬉しくてたまらないんだ。

僕らが騒ぐのは、一日に一度だけ。

あなたが僕らを構ってくれる、その時だけです。

気付いているのかな。あなたに擦り寄りたり、温もりを与えたり、そんな愛情表現は出来ないけど。僕らは本当に、あなたのことが大好きなんです。

いつも家を綺麗にしてくれてありがとう。寒い冬は温かくしてくれて、暑い夏は氷をいれてくれて、安物の僕らを大事にしてくれてありがとう。

赤、オレンジ、金色の体を揺らめかせて、少しはあなたを、癒やしてあげられてるのかな。

恩返し。能無しの僕らは、それしか出来ないから。

僕らは大好きなあなたのために、今日もゆらゆら尾鰭を揺らすんだ。

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8352c/>

---

水の城

2010年10月10日18時39分発行